

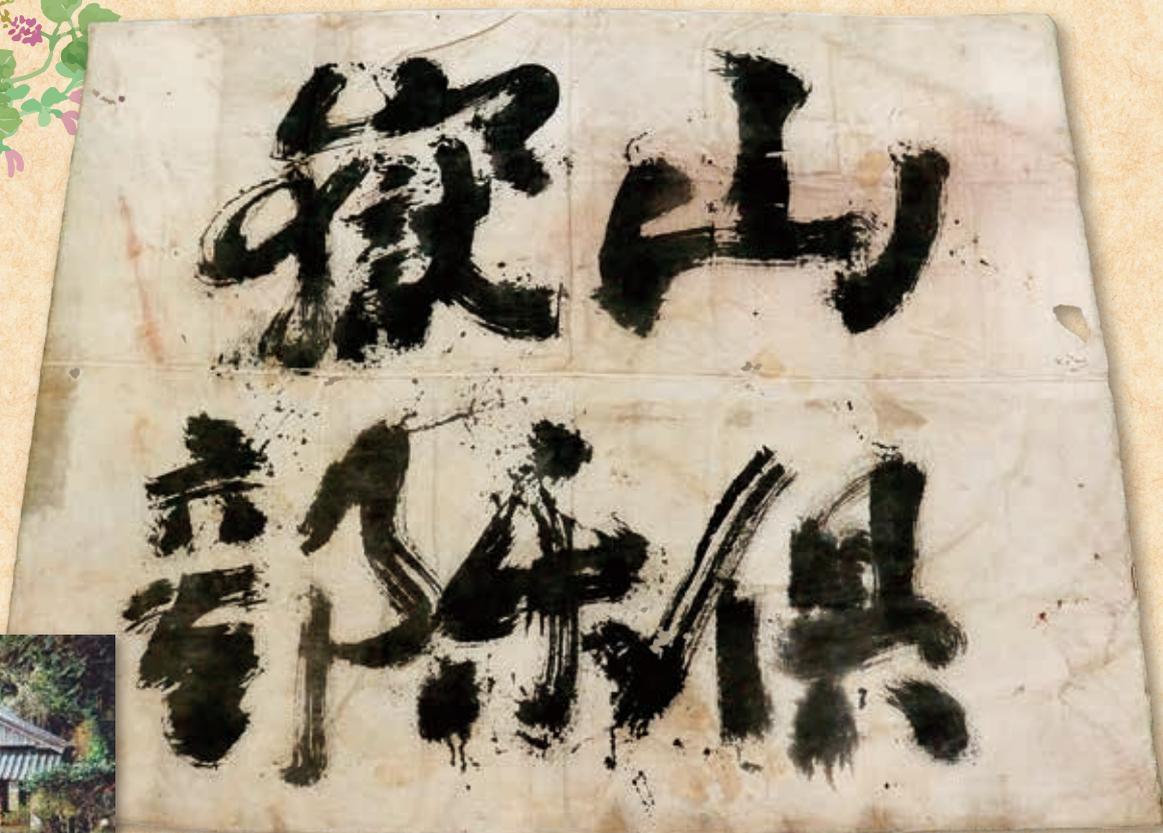
# 自由のともくび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 95

2023 September

- 企画展「牧野富太郎と土佐の自由民権」記念講演会  
高知近代史研究会第113回研究会「民権・佐川・牧野」
- 新収資料報告
- 夏休み子ども歴史教室レポート
- 大学生対象講座レポート



**山嶽社（高知市指定史跡）**  
現在の建物は平成3年に復元したものだ。

## 山嶽倶楽部の旗

高知市土佐山西川地区蔵/当館保管  
182cm×235cmの大型資料。

### ■ツレーエッセイ

## 山嶽倶楽部旗の寄託について

山嶽倶楽部の旗は、土佐山西川地区の公民館「西川公会堂」において、地域の宝として大切に保管されてきました。山嶽倶楽部は、土佐山村の民権結社山嶽社を母体として、第一回衆議院議員総選挙に勝利するため一八八九（明治二二）年二月以降に結成された団体です。この旗も、同時期に制作されたものといわれています。

二〇二二（令和四）年に土佐山アカデミーの皆さんから、土佐山の歴史を学ぶために「旗」を見せていただきたいという依頼がありました。「旗」は、何年振りかのお披露目でありましたので、長年の劣化が心配でありました。そこで、二〇二三（令和五）年四月九日に西川区長さんより、「西川地区の総会において同旗を保管場所の良い自由民権記念館などにお願ひできないか。」と土佐山公民館に相談がありました。自由民権記念館は、大変ありがたい内容であるということと、旗は西川地区からの寄贈ではなく寄託合意致しました。四月二十九日（とさやまの日）に西川公民館にて、関係者の立ち合いのもと、自由民権記念館への寄託が行われました。

土佐山では、自由民権運動の萌芽「山嶽社」の考えを源流として、昭和の土佐山「社会学一体教育」に続き、現在の土佐山学舎の「土佐山学」への『進取』の行動が続いています。

土佐山公民館館長 永野尊士

# 「民権・佐川・牧野」

筒井秀（当館館長）

## 『草木とともに』

（ダヴィッド社・1959年  
角川ソフィア文庫・2002年）

### 「自由党脱退」より抜粋

私の青年時代は、土佐は自由党の天下であった。「自由は土佐の山間から出る」とまでいわれ、土佐の人々は大いに氣勢をあげたものである。

私の郷里佐川町も、全町挙って自由党員であった。私も熱心な党員の一人であって、政治に関する書物を随分読んだ。

自由党の懇親会が開催され、志士たちは、競って壇上に駆け上がった。政府攻撃の演説を行った。私も、この懇親会にはしばしば出席し、肩を怒らして時局を談じた。

政治論争の時間を、植物研究に向けるべきであると悟った。私は自由党を脱党することにした。自由党の同志たちも、私の決心を諒とし、この脱党を許してくれた。

## 「らんまん」では

NHK連続テレビ小説「らんまん」で「楠野喜江」が持っていた声明社演説会のピラには発起人に「早川逸馬・酒井南津男・宮地春繁・能勢源助・小藤猛太郎」とありました。

これは酒井が坂本南海男、宮地が宮地茂春、能勢が能勢源之助、小藤が後藤猛太郎からきているのではないかと想像しています。早川には名前から類推できる土佐の民権家はいないようです。植木枝盛はじめ若手民権家の雰囲気では造形されたものではないでしょうか。

ドラマでは、「榎野万太郎」がひょんなことから自由民権運動に巻き込まれ、共感しながらも、涙を吞んで決別し、植物学の道に進むという展開になりました。

## 佐川の自由民権運動

牧野は青春の思い出として「私の青年時代は、土佐は自由党の天下であった。」と述べていますが、実はそうでもありません。特に高岡郡、幡多郡は国民派が優勢です。その中で佐川と宿毛は民権派の拠点でした。

佐川の民権運動をリードしたのは南山社です。一八七八（明治十一年）に結成され、一八七九（明治十二年）愛国社第二回、一八八〇（明治十三年）愛国社第四回・国会期成同盟結成大会に代表が参加するなど、全国区の結社と言える存在でした。

そしてこの南山社の周辺に様々な団体が登場しました。牧野が参加した団体は、一八八一（明治十四）年八

月結成の同盟会、翌年六月同盟会を發展させ発足した公正社、初代の副社長が牧野富太郎です。そして佐川学術会が一八八四（明治十七）年十一月「公正社臨時總會」に於て該社ノ組織ヲ単純ナル学術会ト為シ名称ヲ佐川学術会ト改メ」発足しています。

## 登壇する牧野

「私も、この懇親会にはしばしば出席し、肩を怒らして時局を談じた。」

新聞紙上で牧野が登壇した記録は三件です。

一つは、一八八一（明治十四）年十一月三日、佐川村小学校の大懇親会、二つは翌年四月三〇日、佐川村柳瀬公園の佐川第二自由懇親会、三つは一八八三（明治十六）年九月二三日、佐川村柳瀬公園の佐川第二懇親会です。

これらは、城下から有名弁士を招請し、様々な工夫を凝らした一大イベントであり、その中に若き牧野の高揚した姿がありました。

## 牧野、警察とやりあう

こうした熱気の中で、牧野が警察と絡んだ記録があります。

南山社の幹部であった西村躍が堀見熙助に宛てた一八八二（明治十五）年六月十八日付の書簡（高知県立歴史民俗資料館蔵）には、「当地自由党之景況最盛ニ已ニ昨夜迄申込ノ黨員殆ント七百名実ニ愉快・中略・公正社ノ演説会傍聴無数青年ノ憤発実ニ驚クニ堪ユ公正社員牧野昨日大ニ北原警部（佐川ヅメ）ヲヤリコメタリ快

哉」とあり、佐川の民権運動の熱気と牧野が警部を「ヤリコメタ」様子を「快哉」と伝えていきます。

また、「公正社組織ニ関スル事項ニ付キ該社副社長牧野富太郎ト問答ノ始末」（『霧生関』三七号 水野進「牧野富太郎博士と佐川町」）には、警察に呼び出された牧野が、公正社の性格を問いただされ、学術組織であると反論したことが記録されています。

## 3人の青年



明治16年の牧野たち  
（川田家所蔵）

一八八三（明治十六）年十二月高知の写真館で撮影、中央が牧野富太郎（二二歳）、向って右が川田豊太郎（十五歳）、左が山崎卯子（十七歳）、このころ彼らは自由民権運動に参加していました。

牧野は翌年上京し東京大学の門をたたきます。山崎はその後も自由民権運動で活躍し、一八九二（明治二十五年）選挙大干渉の際、斗賀野で起こった民権・国民両派の激突（野地騒動）で死亡しました。

川田は、自宅内に私設図書館「川田文庫」を開設し私財を投じて運営にあたります。

## その後の牧野と土佐

牧野は一八八四(明治十七)年の上京後も何回か帰郷し、文化活動で足跡を残しています。年表風にまとめます。

- ・一八八七(明治二〇)年三月二二日『土陽新聞』、佐川私立英学会設立一周年祝宴。幹事長牧野富太郎同会設立の趣旨及び既往の事蹟、将来の目的等を演説。
- ・同年五月六日『土陽新聞』、佐川唱歌会隆盛に赴き、東京より帰郷の牧野富太郎を教師に招聘。
- ・同年十二月二二日『高知日報』、牧野富太郎等設立の高知生物学会の会則を掲載。
- ・一八八九(明治二二)年六月『土陽新聞』、牧野富太郎、佐川に理学会設立。盛大に赴く。
- ・一八九二(明治二五)年『西洋音楽事始め』(『草木とともに』)、「高知音楽会なるものを創立した。『明治二十五年は高知で西洋音楽普及のため』に狂奔して、夢のように過ごしてしまつた。」

## 新道建設と民権派幹部の分裂

佐川では、一八八四(明治十七)年高知より松山に至る県道開削の議論が起り、地域をゆるがす議論となりました。当時国民派は賛成、民権派は民力休養、時期尚早として反対でした。

この時、民権派幹部の西村躍、川田信道(豊太郎の父)は新道開削賛成の立場に立ち民権派を離脱し、翌年五月十一日の新道開削同志会懇親会では、発起人総代川田信道が開会主旨を

述べ、西村躍が「新道開くべし」と演説しています。そして川田信道は、誘致運動の先頭に立つとともに、私財を投じて霧生関を開削したのです。

## 選挙大干渉と佐川

一部有力幹部の離脱にも関わらず、佐川民権派の勢力は拡大し、一八八九(明治二二)年の県会議員選挙では高岡郡で全勝、第一回衆議院議員選挙でも勝利しました。そして、一八九二(明治二五)年の第二回総選挙で史上有名な選挙干渉が行われ、佐川では両派の衝突が頻発し、民権派では山崎卯子が、国民派では楠本正誠(吉村寅太郎の甥)が死亡するなど、ほとんど戦場となりました。

このことは地域社会に深いしこりを残し、その修復がその後の佐川の課題となったと思われれますが、これは別の機会に譲ります。

## 晩年の牧野と川田

一九四七(昭和二二)年十一月二七日付川田豊太郎宛牧野富太郎書簡、牧野八五歳、川田七八歳です。

川田が郷土研究雑誌「吾が村」を創刊しそれを牧野に贈った礼状です。牧野は図書や標本が空襲に遭わなかったこと、相変わらず「ペンと相撲」を取っていることなどを述べ、追伸に「孫六さんが始めて奥の土居へ芝居小屋を建て佐川町屋の若者を役者にした事などを書く人があれば面白いと存じます、これは佐川に取っては一大事件です」と記しています。晩年の牧野の佐川への思いを垣間見せるものです。

## 民権家人物録

かわだ とよたろう  
川田 豊太郎  
(1869~1949)



明治39年2月21日撮影38歳  
宮中参観記念。(川田家所蔵)

佐川の豪商、入吉屋一族に生まれ、一八九六(明治二九)年佐川郵便局長。私財を投じて「和楽園(公園)」「川田文庫」を開設するなど、佐川文化の発展に尽力した。

その人柄を孫の雄造は、次のように回想している。

外ではいつも温和でにこやかだったが、家庭内では非常に厳格で近寄りたく、身だしなみはいつもきちんとし、館長として青山文庫に行くときは必ず羽織袴であった。一方ユーモアも持ち合わせていた。旅行が好きでよく出掛けていた。青山文庫の汽車閲覧室と一緒に本を楽しんだことが懐かしい。

豊太郎に、堀見克禮(一八六七〜一九三三)が宛てた一八八四(明治十七)年九月七日付の書簡がある。

堀見は後に大阪医科大学教授になる人物で、この時東京に出て勉学中であり、故郷の川田を東京に呼び寄せたもので、土佐弁ひらがなで記されている。以下、一部を簡条書きで紹介する。



昭和12年9月3日撮影。  
69歳。  
青山文庫汽車閲覧室。  
(川田家所蔵)

### 【原文】

くるくらないなれば はやくこい おんしも まだわかい  
・じぶんわ そのとき 十六ちやつたけんどもおじんのよおなこちがして はやくこざりしことおこかいした  
・(若い連中がドイツ語を)べるべるよみよつたわまたじつにはがいかつた  
・おもわくのちごおたことばかりで はやくでてこざつたわ はがゆくもまたおこわいせんばん  
・とうぞはやくこい こおちえーにち それからこちまでわ はよおて三か おそおて七かぐらいどおぞはやくこいや ままのがかえるから さらあたりよおきいてみよ

### 【現代語訳】

来るくらないなら早く来い お前はまた若い(若すぎるの意ではなく、いまならまだ時間があるの意)  
・自分は十六歳だったが、老人の様な気がして、早く来なかつたことを後悔した  
・(若い連中がドイツ語を)どんどん読んでいたわ。実に悔しかった。  
・思惑の違ったことばかりで 早く出てこなかつたのは 悔しくもまた後悔千方  
・どうか早く来い(佐川から)高知へ一日 それからこちらまでは、早くて三日 遅くて七日くらいどうか早く来いや 牧野が帰るから そのあたりよく聞いて見ろ

学問の志に燃える明治の青年が、故郷の後輩をよびよせた書簡として極めて印象的である。

結局川田は、「長男は外へは出さない」という家の方針により上京はかなわなかつたのであるが、ならばと自宅内に私設図書館川田文庫を開設し私財を投じて運営した。その姿に、佐川出身の幕末の志士、元宮内大臣の田中光顕が共感し自身のコレクションと資金を寄附して「青山文庫」になっていった。すなわち川田は、高知県における、図書館、博物館の大先達なのである。

# 「牧野新聞」が寄贈されました！

牧野富太郎が植物標本の作製・保管に利用した新聞紙(以下「牧野新聞」)のうち、高知県内で発行された二、一〇〇点について、この度、高知県立牧野植物園(以下「牧野植物園」)から当館へ寄贈を受けましたので、ここに報告します。

## 一 牧野富太郎と植物標本

NHK連続テレビ小説「らんまん」にて、「植野万太郎」が下宿先を探すシーンを御覧になったでしょうか。植物学の道に進むため上京した万太郎は意気揚々と宿屋に向かいますが、持ち込んだ荷物の多さが原因で、下宿を次々と断られてしまいます。しかし彼は、かたくなに荷物を減らしませんでした。なぜなら、そのほとんどが研究に使用する植物標本だったからです。

万太郎のモデルである牧野富太郎も、植物標本を生涯大切に保管していました。東京都練馬区の牧野の自宅に遺された標本の数は、なんと約四〇万点。そこには、牧野自身が採集したものだけでなく、牧野の呼びかけによって送られてきた、全国各地の植物愛好家が採集したものも含まれていました。

## 二 思いがけない副産物

これら植物標本の作製に使われていたのが、まさに新聞紙でした。新聞紙は、吸水性が高いこと・安価であること・どこでも手に入れやすいことから、昔から標本づくりに使われてきました。牧野の自宅には、図らずも、大量の標本とともに全国各地の新聞紙が集まったということになります。

牧野の死後、植物標本は専門機関によって整理されましたが、新聞紙は当初、破棄される予定でした。しかし、希少な新聞を含むなど資料的価値が高いことが判明したため、これから新聞紙を「牧野新聞」として保存することに。東京大学明治新聞雑誌文庫と、牧野植物園の二館に分けて保管され、現在に至ります。

## 三 「牧野新聞」の調査

当館では、令和元年度から、牧野植物園所蔵の「牧野新聞」の調査を行いました。すると、高知県内で発行された新聞二、一〇〇点が含まれていることが判明しました。さらに、氏原和彦氏(当時高知市民権・文化財課企画担当調整官)を中心に内容を確認

した結果、「土陽新聞」等民権派が発行していた新聞の欠号分だけでなく、「高知又新」等、存在自体知られていなかった新聞が多く発見されました。そしてこの度、本調査をきっかけに、これら二、一〇〇点すべてが当館に寄贈される運びとなりました。

新聞資料は、近代史研究において、基礎資料となりうる重要な情報源です。しかし、高知県内で発行された戦前の新聞の多くは、戦時下の空襲によって失われました。「牧野新聞」は、こうして生じてしまった「歴史の空白」を埋めることのできる貴重な資料群です。「牧野新聞」をひろく市民・県民のみならず、活用いただくため、当館では引き続き調査を行ってまいります。



初回調査のようす  
(高知県立牧野植物園にて、令和元年12月)

当館蔵「牧野新聞」概要

- ・「土陽新聞」……一、四四四部
- ・「高知新聞」……二五二部
- ・「高知日報」……二五三部
- ・その他……一五一部

(例)「厳正中立 高知又新」  
「高知実業新聞」  
「高知週報」  
「高知タイムス」他

計二、一〇〇部

## 【こんな新聞が見つかりました】



③『**厳正中立 高知又新**』  
(大正二年二月八日)  
新発見と思われる新聞。記事には、大衆的・娯楽的内容もみられる。本号では、高知市出身の実業家で、三菱グループ総理事をつとめた木村久寿弥太の記事が一面に掲載されている。



②『**土陽週報**』  
(明治三六年一〇月五日)  
土陽新聞社が発行していた週刊新聞。発行日の上に「横倉山麓三十七年一月五日」とあり、本紙は、横倉山で採集された植物が挟まれていたものと考えられる。



①『**土陽新聞**』  
(第六〇〇〇号)  
(明治三五年一月一六日)  
これまで現存していないと考えられていたもので、一面記事は「廿余年來の回顧」。土陽新聞の歴史を紹介している。新聞紙条例によって同紙が発行停止となった際、身代わりとして発行された『高知新聞』『高知自由新聞』が重なる、斬新なレイアウト。



三人のガラス版写真  
(明治16年12月、川田家蔵)  
左から山崎卯子、牧野富太郎、川田豊太郎。



楠瀬喜多肖像写真

「日本植物分類学の父」として親しまれている牧野富太郎の青年時代に注目し、自由民権運動との関わりや、同時代に活躍した民権家について紹介している本展。九月二日からは、資料を全点入れ替えて後期展示を開催中です。  
本展チラシ表面にも掲載している、牧野富太郎・山崎卯子・川田豊太郎が一緒に写るガラス版写真を

企画展「牧野富太郎と土佐の自由民権」  
後期展示が始まりました！

御覧いただけるほか、高知市ゆかりの資料として、牧野が揮毫した寺田寅彦記念館入口の碑「寺田寅彦先生邸址」の原本を展示します。  
また、「らんまん」に楠瀬喜多が登場したことに合わせて、楠瀬喜多の晩年の写真も展示します。この機会に是非御覧いただきたいらと思います。

記念講演会

### 「植物学九十年—牧野博士の横顔—」

講師：村上 有美氏

(高知県立牧野植物園 植物研究課文庫班長)

日時：2023年11月25日(土) 午後2時～3時半

会場：高知市立自由民権記念館1階 民権ホール

ZOOMでの聴講も可能です。希望される方は下記URLまたは右のQRコードよりお申し込みください。

<https://onl.la/F4xGW2K>

※講演会終了後午後4時より、本展担当学芸員による展示解説を行います。(参加には常設展・企画展共通観覧券が必要です。)

参加無料

申込不要



# 夏休み子ども歴史教室



7月28日(金)、今年で26回目となる恒例の「夏休み子ども歴史教室」を高知市教育研究会社会科部会との共催により、自由民権記念館で開催しました。

この催しは、自由民権運動や郷土の歴史を、クイズなどで楽しく学びながら知識を深めてもらおうと始めたものです。当日は、高知市内の小学3年生から中学1年生までの31名が参加しました。今年はコロナ禍で中止していた民権歌謡の合唱再開や、模擬演説会を昔の芝居小屋を模した民権座で行うなど、4年ぶりの通常開催となりました。

運営に御協力いただきました高知市教育研究会社会科部会の先生方、「高知県民謡協会」及び劇団「笛の会」の皆さん、ありがとうございました。



## △開会式

社会科部会の先生の司会のもと、開会式スタート。館長挨拶のあとは、映像「自由民権って何？」を鑑賞して事前準備は万端、クイズラリーに出発です。

# クイズラリー

5つのチェックポイントを  
班ごとに回りながら、クイズに挑戦



## ◁第1チェックポイント

(民権歌謡の合唱)

「高知県民謡協会」の皆さんの三味線の伴奏に合わせて、植木枝盛が作詞した「民権かぞへ歌」を歌いました。最初ははずかしそうにしていた子どもたちも、民謡協会の皆さんの御指導のおかげで、手拍子を取りながら元気よく歌いきりました♪歌ったあとは、錦絵パズルで楽しみました。



## ▽第3・第4チェックポイント

(民権クイズに挑戦!)

常設展示室をまわりながら、合わせて10問の民権クイズに挑戦。ちょっと難しい問題もありましたが、展示資料の中からヒントを探し、クイズに挑戦している姿が見られました。



## △第5チェックポイント

(民権すごろく遊びを体験)

明治時代に作られた「民権すごろく」を体験。振り出しの「男女同権」からスタートし、上りの「国会」を目指しました。

## △第2チェックポイント

(民権座で観劇)

劇団「笛の会」の皆さんによる劇を鑑賞。明治時代の「自由民権運動大演説会」を再現した当時さながらのお芝居です。迫真の演技に、子どもたちの眼差しも真剣そのものでした。

めどせ、  
博学連携!

## 大学生対象講座 レポート

自由民権記念館では、館をひろく様々な方に活用いただくことを目的に、御希望に応じて、出前講座、館内での展示解説、各種講座等を行っています。

今回は、大学生を対象に行った講座の模様をレポートします！

### ●高知大学教育学部 歴史学専攻生への講座

(令和五年四月二十六日)

高知大学教育学部で歴史学を専攻するゼミ生のみなさんが、課外学習の一環で来館されました。

まずは、常設展示室と、企画展「春野地域名望家の記録」の展示解説を行いました。所々質問に答えながら、展示の意図や準備段階での小話なども織り交ぜながら御案内しました。

また、学生のみなさんは教員を目標されているとのことでしたので、当館の学校連携事業についてもお話をさせていただきました。その後、「夏休み子ども歴史教室」や出前講座などで子ども対象のグッズと

して活用している「民権すごろく」を体験していただきました。

参加された学生の皆さんが教員になられた際には、ぜひ、博物館施設を活用していただきたいと思います。

### ●高知県立大学「地域学実習Ⅰ」

(令和五年七月九日)

県内博物館を見学し、その意義や価値について考えることを目的とした授業の一コマで高知県立大学一回生一七名と教職員二名が御来館くださいました。

はじめに、当館館長から自由民権記念館設立にいたる経緯や県内の文化施設の状況などを説明した後、常設展示室・企画展示室の解説を行いました。

館内解説の後に設けられた質疑応答の時間には「自由民権運動って難しい内容だ」と思いますが、子ども向けの展示を行うことはあります

か「津波の浸水地域と言っていましたか」  
「何か対策はされていますか」  
など講座や館



内解説を踏まえて抱いたのであるような質問をいただきました。中には「企画展の準備は業務時間内に来るものなのですか」「何人くらいで運営しているのですか」というような質問もあり、博物館の仕事や学芸員業務についてまだまだ一般には知られていないのだと感じました。

### ●高知大学「行政実務講座」 フィールドワーク

(令和五年八月二日)

地域協働学部の学生を対象に、高知大学と高知市が共同で実施している「行政実務講座」。今回はそのフィールドワークとして、高知大学の学生のみなさんに自由民権記念館にお越しいただき、館の成り立ちや、業務内容について紹介する講座を行いました。

表の仕事である展示はもちろんのこと、博物館の根幹である収蔵機能、市民の交流の場としての活用など、様々な側面から自由民権記念館の役割について説明しました。座学と展示案内、合わせて一時間というコンパクトな



スケジュールではありましたが、学生のみなさんからは「図書室やホールなども気軽に活用できることを知った。専門図書も充実している」「予約なしで学芸員や解説員による展示解説が聞けるとは知らなかった。また改めて来たいと思った」という嬉しい感想をいただきました。



学生さんならではの視点に触れることのできたこの機会を活かして、自由民権記念館が若い世代の方々にも親しみを持っていただけ存在になるよう、今後も取り組んでいきます。

展示解説や出前講座を御希望の方は、

**高知市民権・文化財課**

**(0898-8321727)**

まで、お気軽にお問合せください！

# Topics

トピックス

## 夏休み企画「迷路ラリーに挑戦!」を行いました

自由民権運動に関する〇×クイズを解きながら、ゴールを目指すこのイベント。2階展示室には、クイズに正解するためのヒントが書かれているパネルも設置しました。8月5日から20日までの期間中457人の方に参加いただき、自由民権運動について気軽に学べる機会となったと、大変好評でした。



「迷路ラリーに挑戦!」入口

## 夏休み放課後児童クラブに出張してきました

8月10日(木)、秦小学校児童クラブから依頼をいただき、出前講座に伺いました。明治14年に作られた「民権すごろく」と、大正～昭和の高知市の地図を引き伸ばした大型パズルを体験してもらいました。子どもたちは、遊びの中で、自由民権運動や高知の歴史について楽しく学習してくれました。



大型パズル

# 行事予定 (秋・冬)

予定は変更になる場合があります。詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。  
◆は当館内自由民権記念館友の会事務局にお問い合わせください。

開催中～12月3日(日)

### ■企画展

#### 「牧野富太郎と土佐の自由民権」

会場：2階特別展示室  
※常設展・企画展共通観覧券が必要  
※担当学芸員による展示解説 11月25日(土) 16時～

開催中

### ■コーナー展示

#### 「絵葉書にみる土佐の今昔」

会場：2階常設展示室  
※常設展・企画展共通観覧券が必要

10月14日(土) 13:30～16:00

### ◆第23回「泉詞の日」記念講演会

#### 「自由民権運動はどのように始まったのか？」

～『民撰議院設立建白書』から150年を前にふり返る～  
講師：高木 翔太氏(高知県立高知城歴史博物館学芸員)  
会場：1階民権ホール

11月18日(土) 8:45～12:00

要申込

### ◆民権史跡めぐり

#### 「電車で行く旭・弁形界隈史跡めぐり」

集合場所：高知市立自由民権記念館(雨天中止)  
案内人：汲田 美砂(高知市立自由民権記念館学芸員)  
参加費：300円(保険代、資料代等)  
※別途電車1日乗り放題券(500円)の購入が必要

11月25日(土) 14:00～15:30

### ■企画展「牧野富太郎と土佐の自由民権」記念講演会

#### 高知近代史研究会第115回研究会

#### 「植物学九十年－牧野博士の横顔－」

講師：村上 有美氏(高知県立牧野植物園 植物研究課文庫班長)  
会場：1階民権ホール

12月13日(水) 10:00～

### ◆「兆民忌」

集合場所：高知市筆山登り口(雨天中止)  
筆山にある中江家墓所の清掃と墓参り

12月17日(日) 13:30～

### ◆第25回 民権風まつり

#### 「土佐風を作ろう」

会場：1階自由ギャラリー  
参加費：500円

要申込

1月4日(木) 14:00～

### ◆第25回 民権風まつり

#### 「土佐風を揚げよう」

会場：鏡川北岸トリム公園(雨天中止)

1月20日(土)～2月25日(日)

### ■第24回社会科自由研究作品展

会場：1階自由ギャラリー  
市内小中学生の社会科に関する研究作品を展示

1月23日(火) 10:00～

### ◆「無天忌」

集合場所：高知市小高坂市民会館(雨天中止)  
山ノ端町にある植木枝盛の墓所の清掃と墓参り

2月3日(土) 14:00～

### ■博物館講座

#### 「選挙大干渉について」

講師：公文 豪氏(自由民権運動研究家・友の会会員)  
会場：1階民権ホール

3月2日(土) 14:00～15:30

### ■高知近代史研究会第116回研究会

#### 「高知における初期写真の変遷について

－牧野富太郎青年時代の写真を中心に－

講師：天野 圭悟氏(高知県立美術館学芸員)  
会場：1階民権ホール

## ワークショップ

午前の部 10:00～12:00  
午後の部 14:00～16:00

要電話  
予約

定員：各回10名 ※午前・午後とも参加者対象  
参加費：500円 の展示クイズラリーあり

10月21日(土) 「切り絵を作ろう!」(会場：民権ホール)

11月11日(土) 「クリスマスガーランドを作ろう!」(会場：研修室)

1月13日(土) 「ペーパーで小動物を作ろう!」(会場：研修室)

2月17日(土) 「フラワーボックスを作ろう!」(会場：研修室)

3月16日(土) 「折り紙でお雛様を作ろう!」(会場：研修室)